

— ふしぎあそび …… 清水光子 —

觀察あそびさはいふに足りない、まして近頃やかましく言はれてゐる科擧する心を養ふあそびなきはさても言へないものですが、私が小さい時何だか不思議で外のおそびごちがつた面白さを思ひ出し乍ら、幼稚園でしたまゝを二つ三つ書いて見ました。先日の座談會の時にもこんなお話が出ましたがその時、堀先生は觀察について教へるなご力説されました。この遊びも決してなぜ斯うなるかを説明はしません、ほんごうに面白いねと言つてやつてみて遊ぶので、不思議はそのまゝ残して置きます。私も一緒に不思議なのですから。

一 磁石

お姉さんが小學校へ行つてゐる○さんが或日馬蹄形の磁石を持つて來て砂場の中をかきまはして「テツガトレルヨ」

と言つて面白がつてゐました。翌日は急に四五人が大小の磁石をもつて來ました。流行にならないやうにさいふこも手傳つてその日は組の誰もがお友達のを借りてやつてみるこににしてする分面白く遊びました。砂場の砂から砂鐵をさるこに、それを紙の上に集めて下から磁石でおぎらせるこに、磁石の上に紙をのせそこへ砂鐵を撒いて磁石の形を出してみるこに。私の色々なものゝ入つてゐる筆箱の中からくつつくものをさがし出すこに、道具箱の古釘を幾本もくさりのやうにつけつこするこに。なきをして遊びました。

二 レンズあそび

太陽おひさまとお月おつき様さまさいふ繪本にレンズで黒い紙をもやすこにかかいてあるのをみた子さもがさつそくやつて見度いさ

ふ。私に小さい蟲眼鏡があるので、これはその繪本にもかいてあつたやうに少々あぶないので私がやつてみせました。墨で簡単な線畫をかいておいて煙が出て黒い所がもえぬけてゆくのをしてみました。又この時炭の灰をませた墨でかきますと一度火がつくは獨りでもえてゆきますから二重に面白いものです。「先生のおうちの祖母さまはこんなので大きいのをもつていらつしやるの、新聞をみる時それで斯うしてみるのよ」話し乍らレンズで大きく見えることをみせましたら、私も僕もお互に手をみ合せつたり(まるで占のやう)なき大喜びでした。

### 三 鏡

お午一寸前、白い壁にまろく、うすくユラ／＼ゆれてゐる日影をみつけた一人が「あれ、おばけ」言ひました。あれ何でせうと言ひ乍ら流しのそばへ立つて行く光る影は消えます、お盆を拭く爲のバケツの上に手をかざすとおばけが少し曇ります。あゝこれだつたのね、さいふこまになつて手をやつてみたりバケツをゆすつてみて影を散らしてみたり、何でもないこまですが面白いのをみました。それで私は小さな懐中鏡をもち出したわけです。それで小さな日影をあちこちうごかしてみせました。あら、おばけさこへ行つたのと言ふ一寸鏡を動かすと戻つて來ます、横向いて何かしてゐた〇ちゃんは、ふいに光に當つて驚いて

「こちらを向き、向いた途端まぶしいので大あわて、正體がわかつて僕にさせてさいふのでいろ／＼にして誰彼に光の箭を向けてゐました。」

### 四 あぶり出しさうかし繪

外に出られない日の火の戀しい頃、あぶり出しをしてみました。小さい頃のこまを思ひ出してはじめはろうそくで書いて代るがはる職員室の火鉢であぶるのです。大へんな人氣をよんで廊下でしやがみ鬼をしてゐた子さも、かくれんぼをしてゐる子さも、みなやらして、言つてほご紙の裏に思ひ／＼の繪や字をかいてあぶつてゐます。それで、ふさ明礬の粉があつたのを思ひ出して少しさいいて筆で書いてかはかしてあぶりました。これははつきりさこげめがつくのでこれの方に轉向する子さもが多くなりました。あぶり出しはみかんや橙や玉ねぎの汁が昔からよく使はれます。稀硫酸なき使つてするまでもないでせう。面白くあそびます。今度は汁を使つてする約束で、みんなこつそりかいて子さも同志交換してあぶるさいふこまにしてをります。うかし繪はろうを揮發油で書いて、筆でかくのですから少し今時困りますが、水にうかして繪を出すのはあぶるのこま又ちがつた面白味があると思ひます。

### 五 手品

毎保育期の終りに子さも達の唱歌や遊戲やお話の集りを

する習慣になつてゐますがその時先生は取つて置きの手品を二つ三つ致します。何のこまはないので御存じの方も多いに存じますが。

イ、ひも切り

長いひもと同じ五寸位の紐を用意して短い方は片手にまゐめてわからぬ様にもつてゐます。長い方を出して「このひもはぎこも切れてゐませんね。これを半分に折つてぎなたかに切つていただきます。それを上手に元通りつなぎます」短の方と云つて短い方×長い方上圖の○印の部分を手の上に握つて子ぎものひしりに×印を切つてもらひ、全部を手の中であらめて長い方の端を靜に引き出してつながつた事を表はすのです。

ロ、糞出し

成る可く黒つばい風呂敷を用意し、やはり黒つばい小さな袋を作つておき、その中へ出さうと思ふおもちやなり、お菓子なり(大ていキャラメルにいたしました)を入れておきます。その袋を見えない様に机の手前にそつまつるしておきます。風呂敷を改めて机の上にひろげ、順に四すみを手にもち、一番手前のをさる時袋も一しよにさり、それが中に入る様に風呂敷を引上げます。そして段々重く、いゝ物が入つて来たやうだなき、言ひ乍ら中へ手を入れて少しづつ出すのです。みんなに分けられるやうな物を入れてお

くま面白さが倍加します。ハ、空徳利から水を出す

前に本誌に堀先生がおかきになりました。白い徳利に水を入れ口を紙ではつておきます。この中には何も入つてゐない事をさかさまにしてためします。そしてその上に白いハンカチをのせ、呪文をさなへ乍ら靜にハンカチを引き、口の紙も一しよにのける様にします。そしてコップに水を注いでみせるのです。

ニ、水の色を變らせる

これは少々準備がいりますが、私は化學室から極少しかけていたぐくのが常です。フェノールフタレンをコップの壁がうるほふ程度につけておき一方のコップには何かうすいアルカリ性の液を水のやうに見せて入れて置きます。「こゝにある水をこちらのコップに移すに何うなるかみてゐてごらんさいね。こちらには何にも入つてゐないのよ」と言ひ乍ら色のかはる事を見せるのです。

ホ、水のおちない瓶

コップか廣口瓶にみんなの見てゐる前で水を一ぱい入れます。そしてその口をびつたり葉書でおさへ、コップごみ倒にして靜におさへてゐる手をはなして水が落ちないことをみせます。